

高潮から身を守ろう

関連 WEBサイト
 気象庁 気象警報・注意報
 気象庁 台風情報
 気象庁 潮位観測情報

避難のポイント

■ 事前情報にも注意しましょう。

台風接近の数日前から、気象情報や市からの防災情報に注意しましょう。



気象庁気象情報

■ 危険を感じたら早めに行動しましょう。

昼間に台風の強風域が近づいている場合や、夜間から明け方にかけて台風の強風域が最接近すると予想される場合は、市から避難情報を呼びかけます。



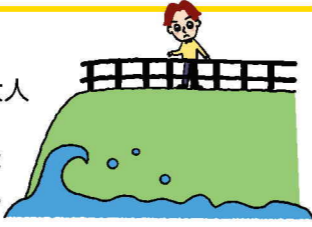
■ 海沿いへ様子を見に行くのはやめましょう。

高波にのみ込まれるおそれがあります。



■ ひとまず高台などに避難

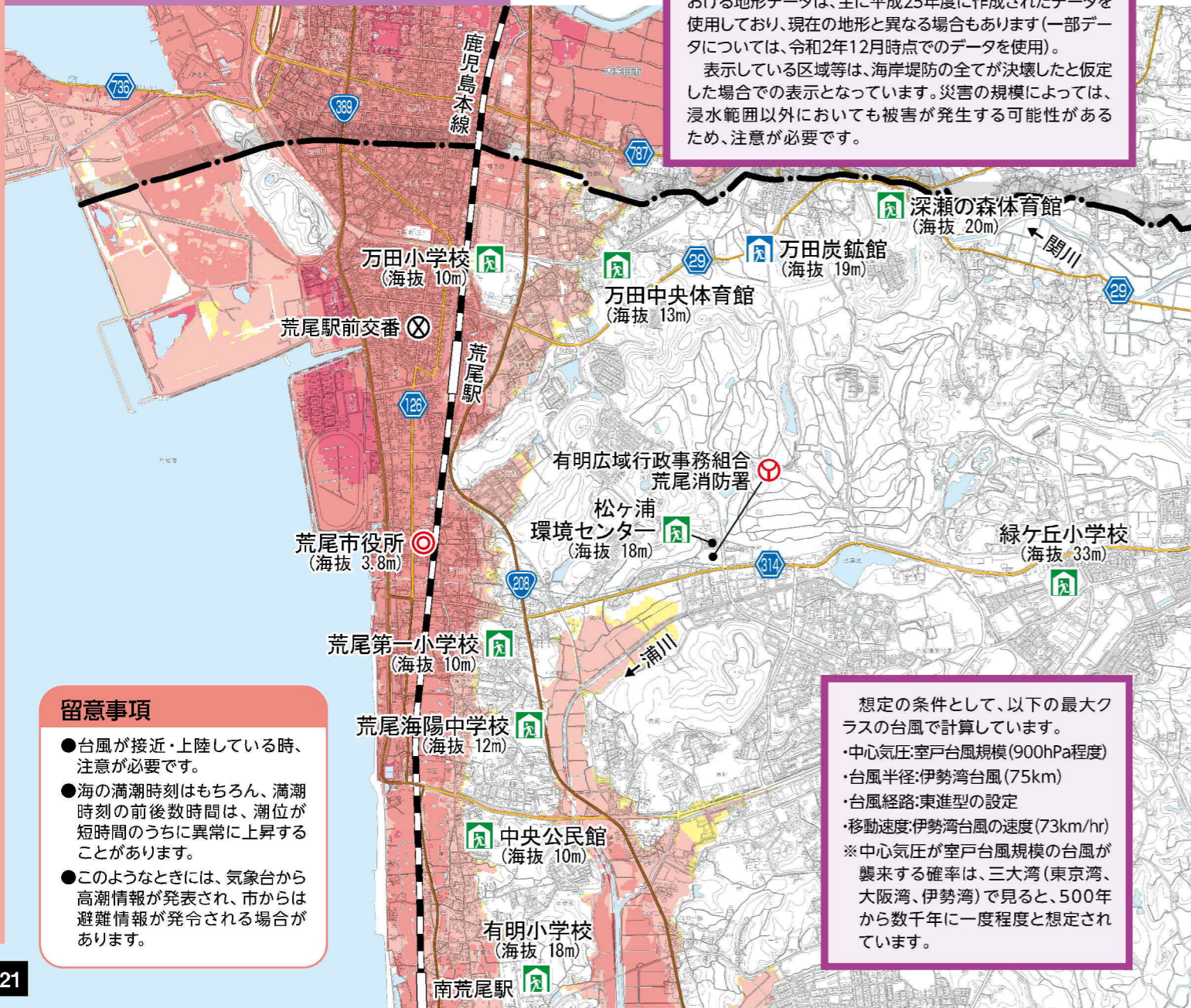
水深が膝の高さを超えたら、大人でも歩くのが困難になります。ひとまず高台や近くの丈夫な高い建物などに避難しましょう。



高潮ハザードマップ

高潮浸水想定区域について

熊本県内の沿岸部を対象に、最大クラスの台風による高潮が発生した場合に想定される、「浸水する範囲(浸水域)」と「浸水の深さ(浸水深)」を示しています(熊本県作成)。想定における地形データは、主に平成25年度に作成されたデータを使用しており、現在の地形と異なる場合があります(一部データについては、令和2年12月時点でのデータを使用)。表示している区域等は、海岸堤防の全てが決壊したと仮定した場合での表示となっています。災害の規模によっては、浸水範囲以外においても被害が発生する可能性があるため、注意が必要です。



留意事項

- 台風が接近・上陸している時、注意が必要です。
- 海の満潮時刻はもちろん、満潮時刻の前後数時間は、潮位が短時間のうちに異常に上昇することがあります。
- このようなときには、気象台から高潮情報が発表され、市からは避難情報が発令される場合があります。

想定の条件として、以下の最大クラスの台風で計算しています。

- ・中心気圧: 室戸台風規模(900hPa程度)
- ・台風半径: 伊勢湾台風(75km)
- ・台風経路: 東進型の設定
- ・移動速度: 伊勢湾台風(73km/hr)

※ 中心気圧が室戸台風規模の台風が襲来する確率は、三大湾(東京湾、大阪湾、伊勢湾)で見ると、500年から数千年に一度程度と想定されています。

高潮発生仕組みと被害を受けやすい場所

① 気圧低下による海面の吸い上げ

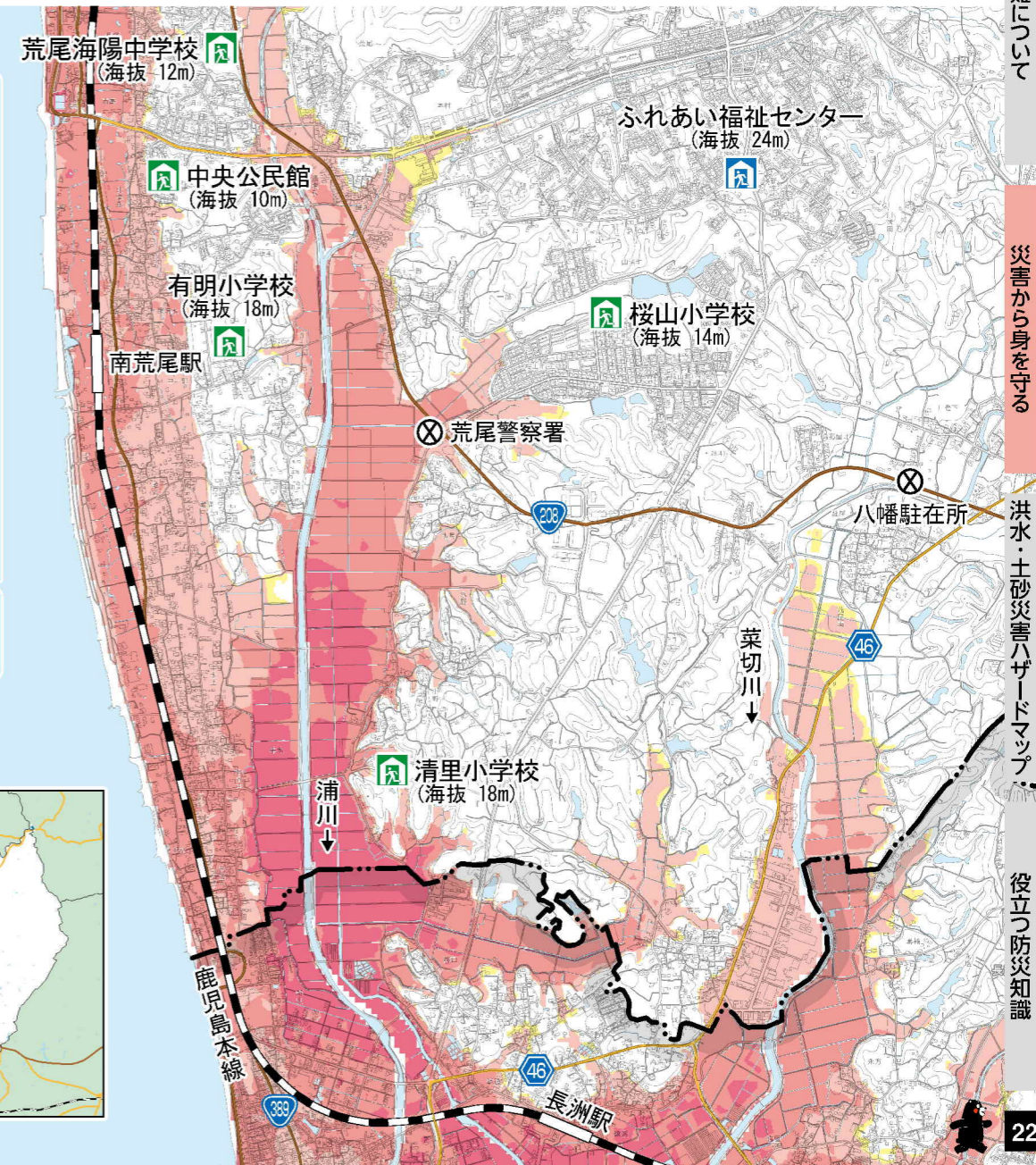
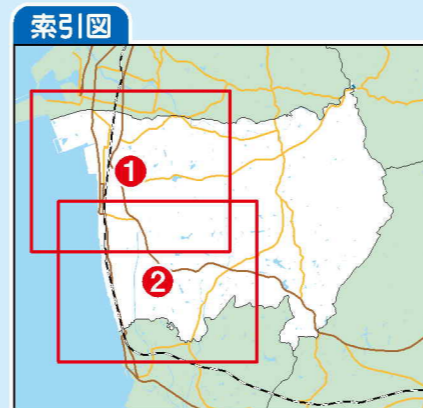
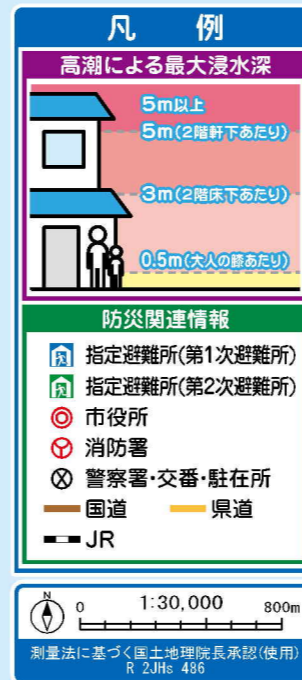
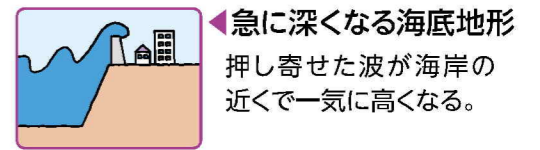
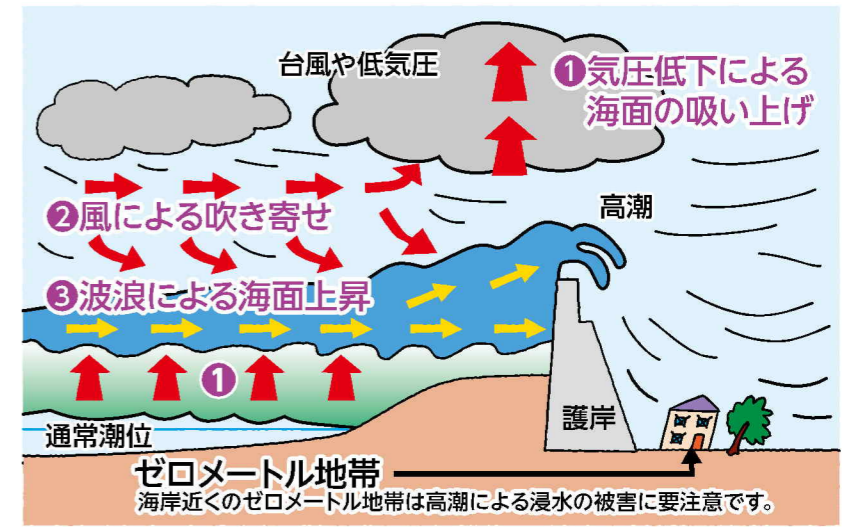
台風や低気圧の中心気圧は周辺より低いため、中心付近の空気が海面を吸い上げる結果、海面が上昇します。

② 風による岸への吹き寄せ

台風による強い風が海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられて、海岸付近の海面が異常に上昇します。

③ 波浪による海面上昇

大きな波が海岸に向かって絶え間なく押し寄せると、沖に急速に戻ることができず、岸に近い場所に多量の海水がたまるようになり、海面が上昇します。波が大きいほど、海面の上昇も大きくなります。



はじめに

日頃から備える

避難について

災害から身を守る

洪水・土砂災害ハザードマップ

役立つ防災知識